

[概要]

これまでの研究では、様々な場所をジェンダー化された空間として捉えることにより、男女関係に関する社会的背景などが空間形成に影響を与えていることが明らかとなったが、ジェンダー化された空間が特定の人をその人が属する社会に定着させる機能があるという点に関して多くは触れられていない。生地の清水（しょうず）は女性が多く利用していることから、ジェンダー化された空間であると考えられる。そこで本研究では、生地の清水を事例に、地域住民の視点から地域資源の空間としての位置づけをジェンダーの視点から検討する。そして、ジェンダー化された空間が社会に果たす役割について考察することを目的とする。清水は女性の語らいの場として認識されるなどの理由からジェンダー化された空間であるといえる。生地地区は集団就職により他地域出身者の女性が転入しやすい状況であった。そのため、清水は、その利用を通して方言など生地地区の住民として生活するために必要な知識を学習する場・コミュニティを形成する場として、新たに転入した女性たちを地域社会に定着させる役割を果たしていた。また、地元出身者と他地域出身者が清水の利用を通して交流することにより、その視点の違いから住民に地域の魅力を認識させる機能も有していたと考えられる。これらの役割は、ほかのジェンダー化された空間には見られない特有のものである可能性もあるが、ジェンダー化された空間の一つの側面として捉えることができると考える。利用者が減少した現在ではその役割は薄れているが、別の形として、一部の役割を果たし続けている。

キーワード：ジェンダー，地域社会，生地の清水